

発生学、摂食・嚥下の現場、関連研究から学ぶ

食べる・飲む メカニズム

「食のサポートを必要とする高齢者」「うまく食べられない子ども」の増加が深刻な問題となっています。何らかの原因で摂食・嚥下の機能が低下している高齢者でも、まだ機能を獲得する途中の子どもでも、食べるという行為の仕組みは同じです。日ごろ当たり前に行っている食べたり飲んだりする行為を意識して体感することで、適切なサポートの仕方も見えてきます。

自身の体感、そして最新の研究を含めた豊富な情報から、楽しみながら、深く「食べる・飲むメカニズム」について学べる書です。

【編著】

摂食研究会(保育士、歯科衛生士、社会福祉士、管理栄養士)

氏家賢明(歯科医師)／大野 康(歯科医師)

日本歯科新聞社「食べる・飲むメカニズム研究班」

子育てから
高齢者介助まで
口腔の生理がわかる！



A5判 / 112p

定価 2,160 円 (2,000 円+8%税)

ISBN978-4-931550-38-4

第1章

体感してみましょう！

—写真・イラストで学ぶ

摂食研究会

1. 飲んでみましょう

・コップで水を飲む

<ワンポイント:呼吸の重要性/冷たい水、温かいお茶を飲んでみると…>

・スプーンで水を飲む

2. 食べてみましょう

・ヨーグルトを食べる

<ワンポイント:目、手、口の協調>

・ご飯を食べる

・形の異なるものを食べてみる

・姿勢を変えて食べてみる

<ワンポイント:介助・姿勢の補助>

・五感を妨げて食べてみる

<ワンポイント:介助・食欲が増す魔法/脳が最も働く瞬間は?>

3. 誰かに飲ませてもらいましょう

・水を飲ませてもらう

<ワンポイント:介助・コップのサポートの仕方>

4. 誰かに食べさせてもらいましょう

・目をつぶったまま食べさせてもらう

・食事を食べさせてもらう

<ワンポイント:介助・道具の角度ほか>

5. [essay] 介助する方に知ってほしい心構え (大野 康)

■ 障害児との関わり方について、アメリカで3年間研修留学し、約20年にわたり摂食や口腔リハビリに関する個別指導や、関係職種(看護師、栄養士、歯科衛生士、保健師、歯科医師、保育士、介護福祉士など)に対して幅広く研修や講演を行っていた摂食アドバイザー(歯科衛生士)の柴田浩美氏のメソッドがベースとなっています。



第2章

食べる機能の雑学・研究

日本歯科新聞社「食べる・飲むメカニズム研究班」

1. 咀嚼とは?

2. 空腹感と食欲

3. 吐き気と嘔吐

4. 味覚

5. 口唇の役割

6. 舌の役割

7. 頬の役割

8. 唾液の役割

9. 歯の役割

■ 食べる行為に関わる器官・働きなどについて、発生学、解剖学に関する内外の研究などから多岐に渡り紹介。興味深いトピックについて掘り下げ、さらに広い知識に触れていただけるよう、項目ごとに豊富な参考文献を掲載しています。

第3章

胎児・乳児の口腔機能の獲得

氏家賢明

1. 胎児の口腔機能の獲得

2. 乳児の口腔機能の獲得

3. 口腔機能Q&A

[小児編]

Q. うまく食べられないのですが…

Q. 偏食が出てきて困っているのですが…

Q. 発音が悪いのですが…

Q. ダウン症による言語障害は改善しようがないのでしょうか?

[高齢者編]

Q. 親の食が進んでいません。さざみ食、とろみ食を考えるべきでしょうか?

Q. 誤嚥性肺炎を防ぐため、経管栄養を勧められているのですが…

■ 胎児の頃から人が食べる機能を獲得するまでの流れを、柴田氏から学んだ知見、発生学・生物学を交えて紹介。



お申込みは電話・FAX・Webまたはお出入りの歯科商店まで

※直接本社にお申し込みの場合、お支払い用の振込用紙を書籍に同封させていただきます。

(株)日本歯科新聞社

東京都千代田区三崎町 2-15-2 Tel. 03-3234-2475 Fax. 03-3234-2477

jdn@dentalnews.co.jp

http://www.dentalnews.co.jp

目次と内容の一部が見られます

本社発行の日本歯科新聞、アポロニア 21、新刊、イベントなどのお知らせをメールにて配信中! 配信ご希望の方は本社ホームページよりご登録ください。